



NAGASE Group

HAYASHIBARA サステナビリティ コミュニケーションブック

持続可能な社会を目指して

2023

お問い合わせ先

株式会社 林 原

経営デザイン部

〒700-0907 岡山市北区下石井1-1-3 日本生命岡山第二ビル新館

TEL.086-224-4311 FAX.086-224-8492

林原サステナビリティサイト

<https://www.hayashibara.co.jp/data/sustainability/>

発行年月:2023年8月



はじまりは、140年前。甘いものが貴重だった時代に、
太陽の恵みであるでんぷんで水あめをつくったことが林原の原点です。
以来、微生物や酵素の力を利用して素材の開発を続け、
自然と向き合うことで得た気づきや学びを社会の豊かさにつなげてきました。

そしていま、わたしたちは新たな想いを手にしています。
地球の健康が危ぶまれるなかこれまで以上に自然を尊びながら、
持続可能性を見据えた研究や素材開発に注力したい。
同じ志を持つパートナーと連携し、未来への価値を共創したい。

林原のものづくり

1959年に微生物の酵素でぶどう糖の大量製造を果たして以来、
自然由来の素材を開発しさまざまな成果を積み重ねてきました。

多機能な糖質

トレハロース

食品の賞味期限をのばす、水分を保つ、農作物の環境ストレスへの耐性を高めることで生産性を向上させる、といったさまざまな機能を持ち、食品、化粧品、医薬品、農業分野などに幅広く使われています。

水溶性食物繊維

イソマルトデキストリン

ビフィズス菌を増やし、腸内細菌のバランスを整える素材です。変性しにくく、素材の味や色を邪魔しないことから、さまざまな食品や飲料に用いられています。

接着力や被膜性に優れる多糖

プルラン

水溶性の多糖で、接着力が強く、食品の結着材として用いられています。被膜性にも優れており、医薬品用のカプセルや錠剤のコーティングなどにも使われています。

ソリューションを提案する製剤

酵素

緩やかな条件下で効率的に作用する環境にやさしい製剤です。食品、飲料から洗剤、水処理、繊維加工まで、さまざまな分野で暮らしを支えています。

Hello Future! Follow Nature!

土壤に負荷をかけず食料を生産する試み。

海を汚さない素材を開発する試み。

自然とともに歩んできたわたしたちだからこそ
貢献できる領域があると思うのです。

太古から息づく微生物や酵素の力にならないながら、
まなざしは遠く未来へ。

林原は創業から変わらぬ想いで、
人と地球の健やかな未来をひらきます。



自然の力を 未来の力に。

自然の力を活かしたモノづくりで、豊かで安心な暮らしを支えてきた林原。このほど酵素のバイオニアであるナガセケムテックス生化学品事業が仲間となり、ともにバイオの可能性を拓き、4つのマテリアリティを軸としたサステナビリティ方針をさらに推し進めてまいります。コロナを契機とするサプライチェーンの寸断、不安定化する国際情勢、気候危機など、深刻な課題が山積するなか、一人ひとりが問題意識をもって、より良い未来を築くために行動する必要があると考えています。わたしたちは未来への責任を胸に、環境・社会・ガバナンスにおける活動を進化させるとともに、ステークホルダーとのパートナーシップを強め、「サステナブル(持続可能)な価値の共創」を加速させます。自然の力を未来の力に。当社の取り組みに、ご期待ください。



代表取締役社長 安場 直樹

Policy

わたしたちのありたい姿

自然とともに歩む林原は、
事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。



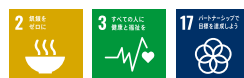
Materiality

わたしたちの目標

2030年のありたい姿に向けて、いまなにをすべきか。なにができるのか。
SDGsのテーマをふまえながら経営陣と社員が意見を交わし、
4つのマテリアリティ(重要課題)を定めました。

4つのマテリアリティ

1 健康寿命延伸への貢献



変化する市場の期待に応えられるように自社の技術を磨きあげ、ユニークで研ぎ澄まされた素材、技術、情報を適切に提供し、世界の人々のウェルネスの実現に貢献します。

3 社員エンゲージメントの向上



多種多様な社員が、健康でやりがいをもって働き、個々の能力を最大限に発揮できる職場をつくります。また、社員同士が互いを尊重し、切磋琢磨しながら成長していく環境を提供します。

2 安定的な食料確保



サプライチェーン全体でのロス削減と、農業・畜産・水産など既存食資源の生産性向上に努めます。また、次世代食資源の開発を産学官のパートナーシップを通じて実施し、持続可能で安定した社会の実現に貢献します。

4 環境負荷の低減



事業活動を通じて自社が発生させる環境負荷を低減する努力を行うとともに、環境課題の解決に貢献する製品や技術開発に前向きに取り組む、地球と共生できる企業を目指します。

ステークホルダーとの対話を通じて、価値共創へ



Action

わたしたちの行動計画

マテリアリティ(重要課題)に取り組むため、サステナビリティ行動計画を策定しました。
全社でベクトルを合わせるため、2030年にわたしたちが目指す
”ステークホルダーの皆さまへの提供価値”を明確化し、迅速かつ具体的な行動に移しています。

サステナビリティ行動計画

単年度の計画と実績はWEBサイトで報告しています。

2030年の提供価値		対応するマテリアリティ	
【人・企業風土】 変化を楽しみ 自ら行動を起こす	事業成長を牽引するリーダー育成とダイバーシティ推進	③	
	社員一人ひとりが自発的な貢献意欲をもって能力を発揮している	③	
	コーポレートガバナンスの強化を通じたインテグリティの追求	③	
	健康経営の推進	③	
【事業】 市場をリードする 技術を追求し、 世界の人々の 生活の質を向上させる	食品素材事業	食の未来への貢献、生きる力を世界に提供 ※「国連食料システムサミット2021」へのコミットメント	①②
	パーソナルケア・医薬品素材事業	QOL向上と健康寿命延伸への貢献	①④
	ウェルネス製品事業	サステナビリティに対する当社の取り組みの理解者拡大	①
	機能性色素事業	自社製品を通じて社会課題の解決に貢献する	①
	オープンイノベーションを通じた新規技術の創出		①②④
【環境】 事業活動を通じて 持続可能な社会を つくることに貢献する	環境負荷低減を通じた持続可能な社会への貢献		④
	生産性の向上、モノづくり現場の持続可能性		③
	世界水準のマネジメントシステムを通じた「安心・安全」の提供		①②④
	クオリティカルチャーの定着		①②④
	サプライチェーン全体での環境負荷削減		④

マテリアリティ… ①健康寿命延伸への貢献 ②安定的な食料確保 ③社員エンゲージメントの向上 ④環境負荷の低減

行動計画を支える風土改革



インテグリティの推進

インテグリティとは「誠実」、「真摯」、「高潔」などの概念を表す言葉で、「すすんで良いことをしよう」という能動的な姿勢を意味します。国際的にもコンプライアンス経営からこの考え方にシフトしつつあります。当社は、透明性と緊張感のあるガバナンス運営のなかでインテグリティの浸透・啓発を推進するとともに、関連に対話ができる職場の風土づくりに取り組んでいます。



クオリティカルチャーの推進

安心安全な製品を安定してお届けする仕組みを下支えするクオリティカルチャーの浸透・定着に努めます。品質保証部門内では、目指す姿の意思統一と浸透を推進していきます。また、日本規格協会などが主催する「品質月間」の期間に合わせて社内に啓発記事を発信するなど、品質を身近に感じる環境を整えます。

自然由来の力で、 世界の人々のウェルネスに貢献します。

途上国では栄養が足りず危機的状況にある命があります。
一方、先進国では栄養過多や偏食が社会課題となっています。
わたしたちは、人生100年時代を健やかに暮らすための
素材や技術、情報の提供に努め、自然由来の
素材の力で世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。



マテリアリティ ① 健康寿命延伸への貢献

Action Report — 林原の取り組み —

人の健康を腸から考える

林原ライフセミナー開催

「第5回林原ライフセミナー」では、京都市立医科大学教授の内藤裕二先生をお招きし、腸内細菌の仕組みや働きをわかりやすく解説していただきました。老化と腸は関係が深く、腸内細菌の多様性が健康長寿の秘訣であること、「腸活」のポイントやお勧めの食事などを具体的にご紹介。会場の皆さまに好評をいただきました。

会場：岡山市・山陽新聞社さん太ホール



健やかな食生活のために

機能性素材を活用した フレイル対策をご紹介

国内最大の高齢者食・介護食の展示会「メディケアフーズ展2023」にブース出展。肉や魚をやわらかくしっとり仕上げられる「トレハ®」や、従来は着色や臭いの課題があり組み合わせにくかったたんぱく質と併用できる安定型ビタミンC「アスコフレッシュ®」、腸を健全に保ち栄養が摂れる体づくりに貢献する水溶性食物繊維「ファイバリクサ®」をご紹介しました。「給食施設のためのトレハ®活用マニュアル」も配布しました。



真の美しさとサステナビリティは素材から

IFSCC (国際化粧品技術者会連盟) にて パーソナルケア素材の サステナビリティ総説を紹介

2022年9月にロンドンで開催されたIFSCCの学術大会で、当社が考える「ホリスティックサステナビリティ」を紹介しました。機能性素材の有用性や皮膚の健やかさを追求しながら、環境に負荷をかけない持続可能な製造プロセスが重要であると発信しています。人にも地球環境にもやさしい製品づくりが「真の美しさ」につながると考えます。



恒常的な取り組み

抗体医薬品の 安定供給に貢献

たんぱく質を安定化するトレハロースの作用により、がんや免疫異常による病気や重症化した感染症の治療に有効な抗体医薬品の品質を保持。グローバルな安定供給にも貢献します。

高齢化社会における 食の課題を解決

「トレハ®」を活用した、高齢者向けの美味しく、食べやすいレシピを開発。ユニバーサルデザインフードの普及や、病院・福祉施設の給食改善にも貢献しています。

防災食の課題を解決

安定型ビタミンC「アスコフレッシュ®」は、防災食や備蓄食の課題であるビタミンCの摂取不足を解決します。1食で必要な栄養が摂取できるパーフェクトフードへも活用されています。



Permanent Efforts

【トレハ®】はトレハロースの食品用途向けの商品名です。

飢餓ゼロ達成のために



©Mayumi Rui

国連WFPの活動を支援

国連の食料支援機関である国連WFPの「飢餓と貧困を撲滅する」という使命に賛同し、2022年度よりコーポレートプログラムにパートナーとして参加。寄付を通じて活動支援を行い、より多面的に「安定的な食料確保」へ貢献しています。またNPO法人国連WFP協会の理事事務局長をお招きし、世界の食料危機の状況などについて講演していただきました。

酵素の力で豊かな食生活を

卵本来の力を引き立たせ 美味しさが長続き

卵黄改質酵素『デナベイクRICH[®]』は、卵黄に豊富に含まれるリン脂質に働きかけることで卵本来の乳化力を増強します。卵を使ったさまざまな食品に活用可能であり、ケーキでは使う卵の量を減らしても、ふっくら柔らかく焼き上がり、口どけが良く、しっとりとした食感が長続きます。卵不足や価格高騰が懸念されるなかでも、豊かな食生活をあきらめずに安定的な食料確保の礎とします。



お客さまのSDGs貢献を支援

レシピを通じて提案

当社製品を使ったレシピ資料を通じて、SDGsの達成に貢献する事例を紹介しています。フードロスや調理時のエネルギー消費の削減などに役立つレシピには、情報提供を目的としてSDGsのロゴを添付しています。お客さまとよりよい未来に向けた共創を目指します。



恒常的な取り組み

人と自然に やさしい農業へ

トレハロースによるバイオ肥料の安定化効果で化学肥料の使用を低減します。農作物のストレス耐性の向上にもトレハロースは効果を発揮。自然環境や作り手への負担を軽減します。

植物性たんぱく質の 美味しさ改善

人口増加で不足している動物性たんぱく質の代替食品の課題は、パサつきと独特の臭い。これらを『トレハ[®]』で解決するレシピの開発を進めています。

パートナー企業と フードロス削減

加工食品に『トレハ[®]』を加えることで、美味しく食べられる期間がのびフードロスを削減。食品メーカーをはじめとするパートナー企業に素材の効果的な活用方法を提案しています。

Permanent Efforts

『トレハ[®]』はトレハロースの食品用途向けの商品名です。

マテリアリティ 2 安定的な食料確保

持続可能な食料システムの構築に貢献します。

気候危機や人口増加で世界的な食料不足が危惧されています。自社の素材や技術による農作物や畜産物の生産性向上、産学官連携による次世代食資源の共創により、持続可能な食料システムの構築に貢献します。



働く喜びを 豊かな未来につなげます。

会社と社員が同じ方向を向きながらも、
多様な個性を活かせること。
社員の心身の健康を守ることで、
より良い未来の創造に、
一丸となって邁進する企業を目指します。



マテリアリティ ③ 社員エンゲージメントの向上

Action Report — 林原の取り組み —

誰もが快適に作業できる工場へ



製造工場の自動化推進

性別や年齢を問わず、誰もが活躍できる現場づくりに投資しています。たとえば自動化。粉末製品のプルラン(増粘多糖類/カプセル原料)を充填梱包するのは重労働でしたが、段ボール箱の組み立てから充填、梱包、倉庫への格納までを自動化したことで、誰もが従事できるようになりました。より快適な環境を目指し、いっそうの進化をはかります。

地球社会への貢献を考える

社員企画による社内講演会の実施

社員が運営する「全員参加プロジェクト」の活動として、林原のSDGsアドバイザーである横井篤文先生(岡山大学副学長・ユネスコチェアホルダー)をお招きし「地球社会とサステナビリティ経営」をテーマに講演していただきました。SDGs経営と従業員エンゲージメントや人的資本経営の関係性、自己成長と地球社会への貢献のつながりなど、理解を深めることができました。



より働きやすい職場を目指して

TPOに応じ、服装を自由化

安全や健康を考慮した服装規定が適用されない業務に従事する際の服装を自由化しました。TPOに応じた服装の自由度、選択肢を増やすことで、より働きやすい職場の実現を目指します。



恒常的な取り組み

こころとからだの健康相談会

健康経営を推進する健康推進課を新設。同課所属の看護師が社員の健康をケアする相談会を定期開催しています。また、毎月オンラインで、ストレッチ指導や健康アドバイスも実施しています。

経営陣と全社員が対話する試み

経営陣と社員とが、当社の「ありたい姿」について対話を実施。22年度末にはほぼ全社員との対話を終了。参加した社員から「経営陣と対話する貴重な機会となった」などの声があがっています。

ワークライフバランスを促進

フレックスタイム制度やノー残業デー、テレワークの導入、男性の育児休暇取得の啓発活動、アニバーサリー休暇のトライアル実施など、仕事とプライベートの調和を支援しています。



Permanent Efforts

アップサイクル原料から新素材



廃棄処理される農作物を活用し 味質改善素材を開発

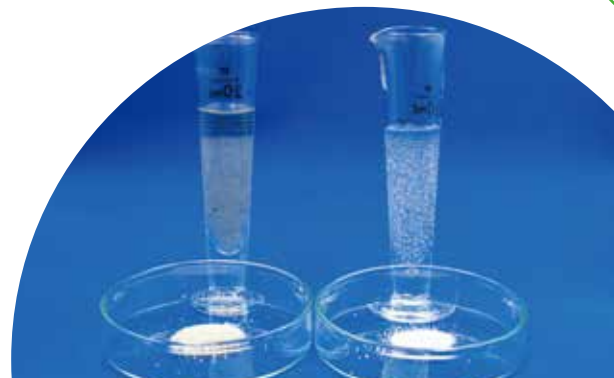
柑橘類の摘果した幼果や落下した果実など、本来廃棄処理される農作物を原料に、新たな機能性製品「ナリンビッド®」を開発しました。溶けやすく、微量でもキレの良い苦味を付与できる素材で、味質の改善効果も期待できます。サステナブルな商品開発に挑むパートナーとともに、飲料分野や香料分野で新たな価値を提供します。

環境への新たなソリューションを

NAGASEグループで共同開発※ 自然由来の高吸水性ポリマー

紙おむつやナプキンなどの衛生用品や農業、緑化など幅広い分野で使われるSAP(高吸水性ポリマー)。従来品は、環境負荷が大きいことが課題とされていました。これに対し、自然由来かつ高い吸水性を有するSAPの開発に成功。2025年度以降の上市を目指し、量産技術の確立と生産体制の構築を進めます。

※長瀬産業、ナガセケムテックス、林原の3社



他社の自然由来SAP(左)と開発品(右)の吸水性を比較した様子▲

取引先とともに物流の省エネ化を図る

混載チャーター便の利用を促進

物流2024年問題を見据え、物流負荷軽減に取り組んでいます。とくに輸送効率にこだわり、主要都市への小口注文を配送コースや積載量などを加味し、方面別にグループ化。お客さまと輸送プランを調整後、最適な条件で運送業者を手配しお届けしています。その他にも数々の取り組みが実を結び、3年間で地球約38周分(約9.5%)の輸送距離を削減しました。



恒常的な取り組み



グリーン購入を推進

一部の製品パッケージにFSC認証紙を使用。展示会等で配布するノベルティグッズの素材も環境に配慮したものに切り替えるなど、サステナブルな購入と提供を進めています。

エネルギー運用の最適化

太陽光発電パネルによる自家発電、照明のLED化、工場のボイラー効率改善、省エネ機器の導入など省エネルギー、CO₂削減を推進しています。

自然にやさしい排水処理

半導体などの製造に使われる過酸化水素は、環境負荷のある素材です。当社の微生物由来の酵素「カタラーゼ」はそれを無害な水と酸素に分解し、工業生産と環境保全の両立に貢献しています。

Permanent Efforts

マテリアリティ 4 環境負荷の低減

プラネタリーヘルス実現のため 人と地球の調和をはかります。

地球と共生する企業として、ふたつの方針で環境負荷を低減します。ひとつは自社の事業活動における環境負荷の低減。もうひとつが、環境課題の解決に貢献する製品や技術の開発です。また、これらの成果を環境パフォーマンスデータとして可視化し、向上に努めています。



Initiatives and External Recognition

賛同するイニシアチブ



国連グローバル・コンパクト

世界的な取り組み「国連グローバル・コンパクト」に署名。10原則（人権・労働・環境・腐敗防止）を尊重し、より一層サステナビリティの取り組みを推進していきます。



国連WFP

国連の食料支援機関・国連WFPの使命に賛同。コーポレートプログラムのパートナーとして寄付を通じた支援活動を実施します。



国連食料システムサミット 2021

米国で開催された「国連食料システムサミット2021」にコミットメント。当社の自然由来の素材で、持続的な食料システムの実現に貢献します。



東京栄養サミット 2021

日本政府が開催した「東京栄養サミット2021」に賛同。食品素材で人と地球の健康を支えながら、安全で持続可能な健康食の普及を推進します。

外部からの評価



「EcoVadis」シルバースタットの評価

サプライチェーンに関する国際的な評価機関であるEcoVadis社（フランス）のサステナビリティ調査でシルバースタットを獲得しました。



健康経営優良法人 2023

経済産業省と日本健康会議より、とくに優良な健康経営を実施している法人「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）」に認定されました。



スポーツエールカンパニー2023

スポーツ庁より、従業員の健康増進のためにスポーツを促進する企業として「スポーツエールカンパニー 2023」に認定されました。

*EcoVadis社は、200カ国以上の国で、200以上の業種、100,000社以上のサプライヤー企業の持続可能性を調査し、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な調達」の4つの分野で評価します。
*シルバースタットはスコアが上位25%以内の企業に認定されます。

Topics 2022 — 2022年度 トピックス —

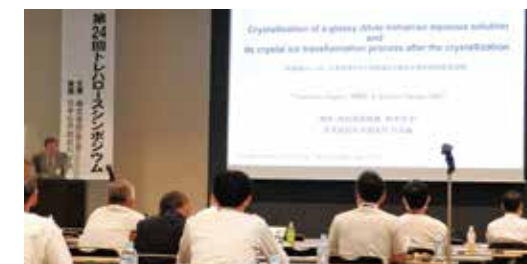
- 2022/04/01 「サステナビリティ コミュニケーションブック 2022」を創刊
- 2022/04/14 飢餓と貧困を撲滅するため、国連WFPコーポレートプログラムに「パートナー」として参加
- 2022/06/19 岡山市より「男女共同参画社会の形成推進」に積極的に取り組む企業として表彰されました
- 2022/06/24 岡山大学 横井先生による「カーボンニュートラル講演会」を開催
- 2022/07/08 福知山事業所が厚生労働大臣表彰 奨励賞を受賞しました
- 2022/08/09 WEBマガジン「サステナブル・アクション」更新
地域特産の和紙原料に新たな価値を ミツマタエキス配合化粧品「結の香」
- 2022/09/01 女性誌「ELLE(エル)」に、パーソナルケア素材のサステナビリティに関する記事広告を掲載
- 2022/09/05 講談社のウェビナー「企業に聞く!SDGsコミュニケーションの現在地」に、当社社員が動画インタビューで登場しました
- 2022/09/08 「第24回トレハロースシンポジウム」を開催(東京・御茶ノ水ソラシティ)
- 2022/10/08 10月8日(トレハロースの日)に岡山駅でイベント開催
「気になる。身になる。岡山ウェルネス ～わたしの健"幸"チェック!～」
- 2022/12/20 データ統計調査会社「Statista Japan」のWEBサイトに
当社の取り組みに関するインタビューが掲載されました
- 2022/12/20 国連グローバル・コンパクトへの署名および グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンへ加入
- 2023/01/27 経済誌「Forbes」に、日本の製造業に関するビジネスレポートとして林原が登場しました
- 2023/02/01 農林水産省WEBサイト「SDGs×食品産業」ページで紹介されました
- 2023/02/28 スポーツ庁「スポーツエールカンパニー2023」に認定されました
- 2023/03/09 「健康経営優良法人2023(大規模法人部門)」に認定されました
- 2023/03/13 第5回 林原ライフセミナー
「腸活でカラダもココロも健康に!! ～腸内細菌の多様性が健康長寿の秘訣～」を開催
- 2023/03/14 林原が製造する機能性色素「NK-4」の薬理作用について、岡山大学が総説を発表しました
- 2023/03/17 「GOOD ROUTE」のWEBサイトに当社の取り組みに関する動画が掲載されました



「男女共同参画社会の形成推進」に積極的に取り組む企業として表彰



安全衛生に係る優良事業場として厚生労働大臣表彰の奨励賞を受賞



第24回トレハロースシンポジウム
(東京・御茶ノ水ソラシティ)



10月8日(トレハロースの日)に岡山駅でイベント開催
「気になる。身になる。岡山ウェルネス ～わたしの健"幸"チェック!～」

会社概要

(2023年4月1日現在)

会社名 株式会社 林原 HAYASHIBARA CO., LTD.
 創業 明治16年(1883年)
 設立 昭和7年7月10日
 代表者 代表取締役 安場 直樹
 本社 〒700-0907 岡山市北区下石井1-1-3 日本生命岡山第二ビル新館
 TEL:086-224-4311 FAX:086-224-8492
 資本金 5億円
 株主 長瀬産業株式会社(100%)
 従業員数 786名
 事業内容 食品原料、医薬品原料、化粧品原料、健康食品原料、機能性色素、酵素、
 リン脂質の開発・製造・販売

主な事業所

- 本社
- 岡山営業所
- L'プラザ 岡山ラボ
- 藤崎研究所
- 岡山第一工場
- 岡山第二工場
- 岡山機能糖質工場
- 藤田工場
- 藤田製剤工場
- 札幌営業所
- 新潟営業所
- 仙台営業所
- 東京営業課
- L'プラザ 東京ラボ
- 名古屋営業所
- 大阪営業課
- 福知山事業所 (福知山第一工場、福知山第二工場)
- 福岡営業所



2023年
4月

ナガセケムテックスの「酵素」事業を統合、新たな柱に

2023年4月1日、ナガセケムテックス株式会社の生化学品(酵素)事業を林原と統合しました。両社が独自に培ってきた技術を集結させることで、NAGASEグループが中期経営計画の注力分野に位置付けるバイオ関連事業のさらなる発展につなげ、人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会の実現に貢献します。



▲福知山事業所(京都府)

2024年
4月

林原は、社名変更し「Nagase Viita」に

2024年4月1日、新社名「Nagase Viita(ナガセヴィータ)」に想いを刻み、わたしたちは新たなスタートを切ります。

「Viita」は事業のテーマである「生命、暮らし」を表すラテン語「Vita」に、「i」を加えた造語です。並んだ「ii」は、共生と共創のシンボル。

世界中の企業や研究者、世代を超えたすべての方々と力をあわせ、まだ生まれていない生命にまで想いをはせながら、人と自然が真に共生する未来を共創するという意思を込めています。

NAGASEグループについて Delivering next.

林原が一翼を担うNAGASEグループは、1832年に京都で創業した化学系専門商社 長瀬産業株式会社を中核とする総合商社です。国内外に約100社のグループ企業を有し、世界を舞台に樹脂原料・添加剤から機能性ポリマー、プラスチック製品、電子材料、機能性食品素材、医薬原料・中間体まで、さまざまな価値を提供してきました。これからも、ビジネスの種を「見つけ、育み、広げる」ことにより、「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に貢献します。

NAGASEグループの サステナビリティ基本方針

サステナビリティを巡る課題への対応は、NAGASEグループが経営理念に掲げる「誠実正道」の精神や、ビジョンに掲げる「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」に通じます。社会・環境課題の解決に貢献する企業活動を継続することにより、持続的な成長が可能になると認識し、サステナビリティ活動方針を定めて積極的に取り組んでいきます。

NAGASEグループの非財務目標(KPI)

2つの目標に対する取り組みを定量的に評価し、モニタリングしています。

■従業員エンゲージメント向上

NAGASEグループでは、持続的成長を実現するには従業員エンゲージメントの向上が最重要と認識し、目指す状態を「会社(組織)と従業員が相互に理解し合い、お互いを高め合う状態」と定義しました。グループ内での「従業員エンゲージメント」の理解・浸透を目的に、定期的なエンゲージメントサーベイの実施を推進しています。

■カーボンニュートラル

グローバルに事業を展開するNAGASEグループにとって、気候変動への対応は重要な課題と認識しており、2050年までにGHG排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルの達成(Scope1,2)を掲げています。加えてScope3についてもサプライチェーンとの対話をすすめ、12.3%以上の削減(2022年比)目標を掲げています。